



大阪府

## 志賀 伸子さん(川添)

取材者：NPO法人つなぎteおおむた 彌永  
取材日：6月19日

### 故郷の夢は遠くへ…



▲自身の著書を手

志賀さんは夫の資隆さんとお二人で、大阪にお住まいです。  
2年前の夏、東京の出版社による絵本の原稿募集を知り、「動物も人間も命は大切だと伝えたい」との思いから、被災地で何があったのかを、動物の目線で執筆。温かいタッチの挿絵付きの絵本「長いおるすばん」(広報なみえ4月号14ページ掲載)として、今年2月に出版されました。

◆愛犬ランとの思い出  
愛犬ランとは、生後50日出会いました。母犬から離されて3日目。無邪気にじゃれてくる他の子犬たちと違って、隅っこでブルブル震えていたの。それでこの子を選んで、懐に入れて連れて帰りました。私たちの話す言葉が分かっていたのね。「さあ、草取りやろう」と言うのと、草取り鎌をくわえて持ってくるし、「新聞」と夫が言えば尻尾を振って持ってくるの。そんなランも、大阪に来て3年目に老衰で目も耳も衰え、その上、がんと診断されました。ある夜、異変を感じた夫がランの脈を取ってみて「もう駄目だ」と。「ラン！」と呼ぶと、かすかに尻尾を振って答えた。だからもうかわいそうに

なあって、耳元で「じいちゃんばあちゃんは大丈夫。今までありがとう。もう、眠っていいよ」と呼び掛けたら、それまで振っていた尻尾の動きを止めて…。これがランの17年の最期でした。  
◆震災から今日まで  
地震直後は何が起きたのか理由も分からないままに、夫とランと一緒に町を出ました。避難はスムーズではありませんでした。たよ。まず家探しへ。犬と一緒にだど分かる断られました。転々とした後に娘がいる大阪に行くことを決め、航空券を取るための順番取りに4日間も空港内で泊まりました。ところが、ようやく大阪へ着いてタクシーに乗ったら「え、福島から？被ばくしているんですか？」と、乗車拒否されそうになりました。た。犬は荷物と一緒にトランクに入れられてね。また、口座開設しに行った銀行では、開設を拒否されました。しかも2行続けて。拒否の理由は不明のままです。「被ばく」という言葉の重みや差別性を、こちらに来てから感じるようになりました。私たちが避難者であると同時に、放射能被ばく者であり、危険人物だったのかも…。こんなことがあって、早くも8年が過



▲震災前の自宅付近の航空写真と直筆の愛犬ランの肖像画

◆出版への思い  
この絵本では、動物が放置された理由を「原発事故」と、はっきり文字にはしていないんですが、読んでもらえればそれを感じて、そして分かってもらえると嬉しいです。原発事故では、人だけではなく動物にも多くの犠牲が出ました。絵本を通じて一人でも多くの方に知っていただきたいと思っています。



# 浪江のこころ通信

・第99号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のこころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話した「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信」第99号への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592  
双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7番地2  
「浪江のこころ通信」宛て  
FAX.0240(34)4593







なみとも  
代表 小林奈保子さん(権現堂)  
副代表 和泉 巨さん(権現堂)  
移住者 大高 充さん(川添)

取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ 古山・松田  
取材日：6月22日

## 浪江の人たちや移り住む人たちと共に、浪江の明日をゆっくり作っていききたい

「なみとも」の活動拠点、「ゲストハウスあおた荘」で出迎えてくださったのは、一部避難指示解除後に浪江町に移り住んだ20代から30代の3人の若者でした。「なみとも」が相談に乗ったり、きっかけを作ったりした町外からの若い移住者は徐々に増えているそうです。「私たちの暮らしの延長線上に『なみとも』の活動が当たり前のようになっています。この浪江でみんなが助け合って、楽しく生活できるように、隣組みたいなものになりたい」と、にこやかに話してくださいました。



小林さん

大高さん

和泉さん

◆東日本大震災が起きた時から浪江で暮らすまで、どのような経緯だったのでしょうか

**小林さん** その日は1年目から2年目という仕事の節目で、OJT（実務を通じて行う教育訓練）などの研修を受けていました。郡山市内の自宅マンションはX字型の亀裂がかなり入ってドアの開閉ができなくなり、知人のところに身を寄せました。

また、田村市の実家は菌床シイタケ栽培農家を営んでいて、シイタケを全て廃棄処分しなければならぬ家族を見ながら、自分にできることはないかと、やきもきしていたことを覚えています。放射線の危険に関する情報もあやふやで、周りのNP活動をする知人たちとインターネットで情報交換をしていました。6月頃に会社が再開し、その後約2年間勤めましたが、時々、避難所になったビッグパレットふくしま（郡山市）などで手伝いをしていました。

平成25年9月、「田村市復興応援隊」の発足と同時にメンバーとなり、担当になった都路町の方々に暮らしへの要望などをヒアリングしたり、軽作業のお手伝いをしたりしながら、平成26年の避難指示解除後のコ

ミュニティ再生活動に従事し、「よりあい処華」の開店サポートもしました。本当に手探りでしたね。

**大高さん** 受験のために埼玉の祖母の家に滞在していた時に震度5強の大きな揺れが起きました。慌ててつけたテレビからは津波の映像が流れ、まるでジオラマを見ているようで言葉が出ませんでした。家族や友人への電話はつながりませんでしたし、実家の近くで大規模な土砂崩れがあったことを知り、小中学校の同級生だった和泉くんの家がとても心配でした。大地震当日に起きた、この白河市葉ノ木平地区の土砂崩れにより、住宅10軒がのみ込まれ、13人が亡くなっています。

その年の後期試験は取りやめになり、浪人生活後、東京で5年間の大学生活を送りました。その間に、和泉くんやNP法人Jinの川村代表から浪江の話聞いて関心を抱き、移住を考えるようになりました。

**和泉さん** 高校を卒業し、郡山市にある建築系の専門学校に入学が決まっていたのですが、震災で約1か月遅れました。白河の家は土砂崩れの現場に近く、近所の人も亡くなりましたが、僕はすぐに郡山市に引っ越ししました。それまで浜通りとのつながりは無く、津波や原発事故と言

われてもピンとこなかったですね。その後、社会人として関東圏で暮らしましたが、福島の場合は全く分かりませんでした。会社を辞めて福島に戻ってからは、NP活動をする知人から詳しい情報を聞き、私自身もNP活動に興味を持ちました。

平成28年にNP法人みんぶくに入り、コミュニティ交流員として福島拠点で1年余り活動しました。浪江町との関わりが強くなり、町の自慢話を聞かされたり、日頃よくしてもらったりする中で、一部避難指示解除後の町の役に立つことがしたいと移住を決断しました。区長の佐藤秀三さんに相談したところ、この「青田下宿」のオーナーを紹介してもらい、「ゲストハウスあおた荘」の運営を始めました。

**小林さん** 浪江町で最初に行われた夏祭りで、移住を希望していた和泉くんを知り合い、2人で平成30年2月に「ゲストハウスあおた荘」と「なみとも」を立ち上げました。コンセプトは「町の人と共にここで暮らそう」「友達の輪を広げよう」など、老若男女問わず人と人がつながる場づくりをしています。ゲストハウスあおた荘を活動拠点として、町の人たちや移住した若者同士が交流できるよ

うなコーディネートをしています。例えば、町民の方々と流しそうめんや餅つきをしたり、浪江の歴史や文化などを知る「なみえあるもの探し」を企画してまち歩きをしたり、移住相談にも乗ったりしています。今年も町外から20代の若者3人が移住してくれました。

◆今の暮らしや「なみとも」の活動、浪江町のこれからに対する思いなどを聞かせてください

**大高さん** 浪江町に越してからNP法人Jinに就職し、トルコギキョウ栽培の研修を受けていますが、来年には友人と2人で独立します。何かを育てる・作ることに興味があったので、地域との関わり方がよく分かる農業は性に合っていると思います。

浪江町は気候的に過ごしやすく、海風も心地いい。人も優しいですし、何より都会よりもストレスが少ない。町には家や仕事を紹介する支援、移住者に対する家賃補助などを望みますし、双葉郡に寄り添った「移住定住支援制度」があったらいいですね。

**和泉さん** 僕は今年、浪江の農家の方から指導を受けて、加倉や川添、西台の畑で、エゴマを作っています。浪江の土づくり

や風評被害に負けない作物は何かを考えながら農業を豊かにしていきたい。生活の糧も得たいし、移住者のモデルにもなりたいですね。

「なみとも」としては、運動会などで子供たちとの交流を図ったり、総合学習で町内を歩き、大豆やエゴマ栽培などを見学・体験してもらったりしていますが、今後さらに子供たちと一緒に地域づくりを学んでいきたいです。

僕は今、町民の方々ともつながり、不便なく楽しく生活しています。浪江でどう幸せに暮らしていくのか、10年後、20年後の姿を想像して活動していくことが大切ですし、外に向けて情報発信することも必要だと思っています。

2年前に比べると夜も明るくなり、町なかの施設もずいぶん充実してきましたが、これから浪江で育つ子供たちが増えるでしょうから、親子で過ごしやすい遊び場や公園などが整備されることを願っています。

**小林さん** 私は平成27年に浪江町職員となり、結婚し、平成29年3月に一部避難指示解除になった後、同年4月に浪江町に越



### 『なみとも・ゲストハウスあおた荘』

浪江町大字権現堂字御殿南18-8

TEL 090(2320)3874

URL <https://namienet.wixsite.com/namitomo>